

カバー特集

ジョルジオ・アルマーニ

誰もがひれ伏す

「24時間仕事バカ!」の  
超ストイックで華麗なる生活

総力特集

楽天

三木谷浩史

ビジネスで成功するか  
どうかの鍵は、結局のところ、  
仕事を人生の遊びに  
できるかどうかだ。



先進的仕事空間、  
新!楽天タワーもご案内

「24時間仕事バカ!」の王者は  
こんなことを考えていた!



特写!  
仕事の流儀  
和央ようか

特集

真実の富裕層

ただお金があるだけではない  
新しい人生の価値を切り拓く人々。

■真実の富裕層はこれだ!  
芦屋の奥座敷の住人  
■世界の富裕層が集まる、  
タイのラグジュアリー  
健康ビジネスほか

徹底検証「HERO」の舞台裏がわかる

フジテレビは日本映画の  
何を変えたか?

【とじ込み付録】  
秘書にもオススメ  
切り札の  
手土産



別冊付録 [ゲーテウーマン]  
GOETHE  
WOMAN

監修・光野 桃

[特別取材] 米国国務長官

ライスの恋

ゲーテウーマン104人登場!

「自分で自分を幸せにする3つの方法」



書き下ろしエッセイ  
よしもとばなな  
桐野夏生  
片桐はいり

仕事が楽しければ人生も楽しい

12月号 定価 750円 (税込) 幻冬舎

GOETHE ゲーテ

本邦初公開!  
羨望のミラノ邸宅

# 真

# 実

# の

ただお金があるだけでは新しい人生の価値を切り拓く人々

石井幸久 著 | Photograph by Takashi Arai

# 富

# 裕

# 層

**ふゆう** **そ**う【富裕層】明確な定義はないが、通常、1億円以上の純金融資産（預貯金、株式、投資信託、債券などを保有する人々のことを言う。この言葉が定着したのは2004年くらいから。デフレが沈静化し、日本経済が回復するなかで、経済格差が拡大したという社会状況から、世間で使われるようになった。また、富裕層は親から遺産を相続した資産家のような旧来の富裕層と、起業や株などで財をなした新しい富裕層に分けられ、後者の消費行動を分析すると、ブランド品やスポーツカー、プライベートジェット、豪邸に別荘などのラグジュアリー消費の傾向が高い――。

◇  
ここまで一般に言われている富裕層の定義だ。しかし、これはあくまでも表面的なデータの話でしかない。ただお金があり、やたらと消費するだけでは飽きてしまわないのか？ 実際、人の消費行動というものにはステップがある。特別なもの、希少性のあるものを所有して、他人との差に優越感を持つという欲求がひと通り満たされると、次は「誰に何と言われよう」と自分が好きだから、自分にとって必要だと感じるから」という欲求のためにお金を使うステップへ上がる――。

◇  
今回、ゲーテが定義する富裕層は、この欲求のために、お金をおしみなく使う人々のことである。彼らはお金を持っていることが決して幸せではない、ということを知っている。そして、精神的な幸せを求めるためにお金を使う。そんな新しい人生の価値を見つける人たちが、その真の富裕層なのである。例えばビル・ゲイツやウォーレン・バフェットのような社会的活動もそのひとつだ。多額の寄付と慈善活動を通じて社会的な貢献を責務として行う――。

◇  
一方、日本はまだまださういった人は少ない。しかし、今後、日本では純金融資産1億円を超える者はさらに多くなり、富裕層はさらに増加すると予想されている。そこにはたして真の富裕層がどれくらいいるだろうか。その数が増えたとき、日本は本当の意味で豊かな国になったといえるのではないか――。

◇  
彼らこそが、これからの未来を切り拓いていくのである。フュージョン(Fusion)融合、混ぜるの意味。(音楽)ジャンル異なる音を融合したもの。とりわけジャズにロックなどを融合させたもの。(物理学)核融合。

ふゆうしようぐん(冬將軍)戦しい冬を擬人化した表現。19世紀はじめ、モスクワに突入したナポレオンが、敵

# 富裕層の求めめる幸せ

純金融資産1億円以上を有する富裕層に限定したプライベート・クラブ「YUCAS E E（ゆかし）」を運営し、一般には公表されない高級不動産や宇宙旅行案内など超プレミアム情報を提供するマーケティング会社、アブラハム・グループ・ホールディングス社社長の高岡社一郎氏は、富裕層と呼ばれる人たちの行動心理を次のように代弁する。

「YUCAS E Eの会員構成は30〜40代が約7割。職業の多くは経営者、個人投資家、医師、弁護士で、自力で職業や投資先などを選択・決断し、その結果、ビジネス上の顧客から評価を高め、その対価として財を築いた方が中心です。

彼らに共通して言えるのは、勇気を持って意志決定し、そして努力したこと。仕事でも投資でも、自分で決めて実行したことや挑んだことに悔いはない、という思考を持ち合わせていて、それはお金の使い方や人生観にも表れてくるように思います。

もちろん、「所有欲は人間の自然な欲求のひとつであり否定されるものではありません。高級品や限定品を買って他人に自慢したいとか仕事に役立てたいというよりは、最終的には自分が「好きだから」、自分にとって「必要だと感じるから」、という純粋な自己実現のためにお金を使う。

私で例を挙げるなら、これは完全にプライベートな「趣味」ですが、3カ月に一度は海外旅行に行きます。その旅行先は、先進国からの消費と投資を必要とする国が多い。そこでは、その国の人たちにとって最高といわれるホテルやレストラン、史跡や場所に足を運びます。理由は二つ。まず、その国の文化や嗜好の究極に触れ、国民性を肌で感じられる貴重な経験ができるから。もうひとつは、私とその国へ旅行し、消費活動をするのが、そのまま社会貢献に直結するからです。

YUCAS E E会員の方の中にも、ボランティアや、好きな絵画の収集に熱心な方などがいらっしやいます。他人の目にどう映りどう思われようと、好きだから続けているのだから、心を満たす目的や理由は多種多様です。

結果的に、富裕層と呼ばれる人が行動すれば消費が活性化します。日本で83人に一人の富裕層の消費や投資は、誰かが声高に主張するまでもなく、それ自体が素直に社会貢献につながり、多くの人を幸せにしています。これは、何にも代えがたい充足感を感じさせるものなのでしょう」

社名の由来は心理学者アブラハム・マズローの名前からと教わった。マズローが唱えた「マズローの欲求段階説」によれば、人は衣食住など底辺の基本欲求を満たすと、ひとつ上の欲求を満たそうと志すという。最終的に、自己の才能や可能性を信じて伸ばす、そこに喜びを見出す。高岡氏は起業精神として社名に冠したかもしれないが、お金やモノよりも精神的な幸せを求めようとする「真実の富裕層」の姿にも通じるように思える。

真実の  
富裕層

- ・自己実現の欲求
- ・自我の欲求
- ・社会的欲求
- ・安全的欲求
- ・生理的欲求

## マズローの欲求段階説

アブラハム・マズロー(1908~1970年、アメリカの心理学者)によると、人間の欲求は5段階のピラミッドで形成される。その段階は生理的欲求、安全的欲求、社会的欲求、自我の欲求、自己実現の欲求で、なかでも自己実現の欲求とは「人間は自分にしかできない固有の生き方をしたい、自分の可能性を最大限に実現したいと思うものであり、欠乏欲求が満たされた場合それを基礎として出現する」と説いた。



上/マダガスカルにて現地の子と触れ合う。右/モザンビークの島では、偉大な自然に、豊かさに感動した。

## 高岡社一郎

1974年生まれ。東京大学卒業後、三井物産入社。インターネットサービス、M&Aプロジェクトなどに従事。「知恵の総合商社」アブラハム・グループ・ホールディングスを創業、代表取締役社長に就任。

Photograph by Makoto Ozaki





一瞬、リゾートヴィラかと見まごう佐上邸。この静かな環境で日々を送る。



## 真実の富裕層を 体現する 芦屋の奥座敷の住人

佐上邦久 さん(国際投資家)

斎藤英恵・文 鞍留清隆・写真 Text by Himee Saito Photograph by Kiyotaka Kuratama



神戸港の夜景。天気がいいと星空も見える。

1である。一方で、非常に熱心な動物愛護運動家でもある。財団法人どうぶつ基金会長であり、国境なき医師団の個人&動物版ともいうべき「またたび獣医師団」の活動を主宰している。

「僕らの取り組んでいる活動は、地域を決めて地域猫に対して避妊去勢手術を無料で行い、もといた場所に戻してやること。人間と動物が共生できる社会のほうか、気持ちいいじゃないですか。それを日本のみならず世界にも広げたい。いわば避



【空いたので買った】隣の家はカナデ・アンログハウス。木の香りが漂う。

芦屋市の納税額第1位の住人の邸宅、さぞ豪華絢爛なインテリアかと思いきや、拍子抜けするほどシンプルだ。全室南向きの日当たりよい間取り、リビングには、数匹の犬と猫が気持ちよさそうにくつろぐ。

佐上邦久氏。日経金融新聞の一面を飾る国際個人投資家であり、富裕層向けの限定会員制SNS「YUCASEE」のメンバ



絶景を眺められる露天風呂を作った。

**日** 本屈指の高級住宅街、芦屋市六麓荘のさらさら、奥。限られた者にしか許されない絶景を臨むロケーションに、その人の自宅はある。しかも「たまたま隣が空いたので」購入した200坪と合せて1000坪を超える広さ。安藤忠雄、岸和郎、小林恒など著名な建築家が「ぜひ設計させてほしい」と押し寄せたという。



Kunihisa Sagami

1960年大阪生まれ、近畿大学卒業。国際投資家。ワークショップ「MBA、東大OBのための商売人学」主宰、大手前大学特別講師「会計と実務講座」、財団法人どうぶつ基金会長、経済マンガの原作、プロのハンググライダーパイロットと、じつに多彩な顔を持つ。

妊去勢手術、獣医療ボランティア専門ですね」  
出資額を勘定したことは無い。「まあ、今は時間もあるし、財テクは得意なので(笑)」と淡々と話す。少なめに見積もっても年間総額1000万円は遥かに超えるだろう。佐上氏をそこまでこの活動に向かわせるのはいったい何か？

**営業利益2ヶタ億円を稼いだ天才起業家**

ここで、佐上氏の現在に至る経緯を紐解いてみたい。  
佐上氏は近畿大学卒業後、3年ほど商社に勤める。途中、遊園地の企画運営会社社長の息子から一緒にベンチャーをやら

ないか」と誘われ転職。仕事は忙しく、28歳にして取締役企画開発室長の仕事を全て代行するほどの活躍だったが3年ほどで退社。

「もともと、会社に属するよりも、個人で自由にやりたい願望があったんです。大勢の部下を指揮する、というのは苦手で。辞めはしましたが、といって目標もなかった。29歳でブータローです(笑)」

自嘲気味に笑いながら、当時を振り返る。ほどなくタイで宝石を仕入れていた幼なじみの仕事を手伝い始めるのだが、ここから佐上氏の大躍進が始まる。宝石の中卸、そして通販へと事業を展開させるのだ。だが、そ

の手法はユニークだった。

「通販システムを考え、商品発送の仕組みを考え、雑誌や新聞の広告を企画する。これらすべて、既存の会社へアウトソーシングしました。人を雇って自分でやるうとは思わなかった」結果、みごと成功し年収は数億円に達したという。

すべては佐上氏の先を読む目、判断と采配が生み出した結果だ。誰もが同じにはいかない。「いちばん稼いだときは芦屋市の総収入の半数になる税金を僕一人で払っていました」とさりと話す佐上氏の天才的起業家ぶりは、業界では伝説となっている。そして2004年以降、事業からは手を引き、国際投資家として今日に至る。

「大金を手にした当初は、僕だって真っ赤なフェラーリや高級時計を買いましたよ。でも結局、モノはモノでしかなくて、自分に必要なものは、単なる道具にすぎない。家だって、居心地よく暮らすための道具でしかない。幸せの次元とか、生きていて楽しいかどうかのレベルで考えたら、お金の有無は関係ないような気がします」

**到達した、幸せの領域は好きなことへの追求だった**

動物愛護活動はお金のない時代から続いていたこと。とはい

**人間2人、犬7匹、猫2匹が楽しく快適に暮らす家**

この家で暮らす動物たちは皆、佐上夫妻が見かねて「レスキュー」した。捨てられた、虐待された、毒を盛られた……。まだ人に慣れない、他の犬と共同生活できない犬もいる。夫妻は彼らのための大きなグルーミング部屋を家の設計段階から入っていた。下手な動物病院とは比べ物にならない、清潔さと最新機器のラインナップ。猫階段もあちこちに設置。リビングの木の枝はデザインと猫が歩くのを兼ねている。壁をくりぬいた動物用ドアもあり、まさに、動物バリアフリーの家だ。



え、潤沢な資金を持つことで活動の範囲や規模も変わり、環境が変われば知り合う人や経験が変わるのも事実。「直接的に影響を受けたわけではないけれど」と佐上氏は前置きしつつ、

「2002年にブーケットに別荘を買ったら、近所にはメルリンチ会長やリーマンブラザーズの会長とか、なぜか投資家が多くて、それもすごい人たちばかり。実際に付き合うようになってみると、意外と気さくで質素な一面も知りました。そんな中、2004年にスマトラ島沖地震が起きて、大津波がきて……。すると彼らはね、被災して親を亡くした現地の小学生の生活費や大学に行くまでの授業料を僕がみましようとか率先してお金を出す。ああ、これがノブレス・オブリージュなのか、と思いましたね」

そこで、佐上氏は自分にできることはないかと考えた。現地の野犬がほとんど殺されることを危惧し、現地のスタッフと協力しながら、去勢手術を行うため、前出のまたたび獣医師団の派遣を主宰した。

「こういう活動って、どれも本気になればなるほどお金出すだけでは済まされなくなってくる。お金を出すことは責任が重いことだし、そうすると、現場に入っていくしかない」

手術した犬、猫がきちんとした里親にもられるか、資金が現場で正しく使われているか見届けなくてはならない。時には動物虐待に対する抗議デモにも参加する。そこまですれば、当然、そういう佐上氏に対し、「偽善だ」といったような非難の言葉を言う人も少なくない。だからと言って、やめたり、陰でこっそりやるという選択はまったくない。なぜなら、彼は「持てる者が経験するすべてのことをやった上で、最終的にこれが残ったのだから」

「偽善だ」といったような非難の言葉を言う人も少なくない。だからと言って、やめたり、陰でこっそりやるという選択はまったくない。なぜなら、彼は「持てる者が経験するすべてのことをやった上で、最終的にこれが残ったのだから」



木材の多用、薪ストーブ、テラコタの床。環境への配慮もある。

「自分のためにやっていると、何億損するなんてどうでもいいし、事業をしていれば起こりえることだから。究極を言えば、僕一人の力で、世界中の動物を助けることはできないとわかっていきます。だからと言って、悔いはないし、やめようとも思わない。それに、一緒に暮らしている犬や猫たちを見ていると、本当に勉強になります。彼らは僕たち夫婦がレスキューしてきた犬や猫ばかりで、来たときは命に関わるケガや不信感の固まりです。そんな人間からさげんさん虐げられてきた彼らが立ち直り、この家で動物社会をつくり、時には助け合うんです。お互いを思いやり、僕たち夫婦

**ブーケットで被災犬をレスキュー**

04年のスマトラ沖地震直後に派遣したまたたび獣医師団。ブーケットのドッグシェルターで避妊手術のボランティアを実施。佐上氏はその資金を全額サポートするとともに、凶器で手のつけられなかったボス犬を引き取った。空港まで現地スタッフが付き添い、お別れの記念撮影も。

